



2018年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年11月9日

上場会社名 ダブル・スコープ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6619 URL <http://w-scope.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 崔元根
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役戦略企画本部長 (氏名) 大内秀雄 (TEL) 03-5436-7155
 四半期報告書提出予定日 2018年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2018年12月期第3四半期の連結業績(2018年1月1日~2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第3四半期	6,277	△9.5	△1,736	—	△1,569	—	△1,353	—
2017年12月期第3四半期	6,933	4.2	228	△87.6	4	△99.7	19	△98.3

(注) 包括利益 2018年12月期第3四半期 △2,453百万円(—%) 2017年12月期第3四半期 277百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年12月期第3四半期	△43.31	—
2017年12月期第3四半期	0.62	0.60

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年12月期第3四半期	49,115	20,439	41.6
2017年12月期	46,674	22,948	49.1

(参考) 自己資本 2018年12月期第3四半期 20,408百万円 2017年12月期 22,905百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期	—	0.00	—	2.50	2.50
2018年12月期	—	0.00	—	—	—
2018年12月期(予想)	—	—	—	2.50	2.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2018年12月期の連結業績予想(2018年1月1日~2018年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,100	△4.4	△2,400	—	△2,200	—	△2,100	—	△67.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、 除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2018年12月期3Q	31,299,600株	2017年12月期	31,197,600株
② 期末自己株式数	2018年12月期3Q	223株	2017年12月期	223株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2018年12月期3Q	31,252,058株	2017年12月期3Q	31,106,886株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示変更について)

第1四半期より日付の表示を和暦から西暦へ変更しております。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2018年11月12日(月)に機関投資家・アナリスト向けの説明会を開催する予定です。この説明会の動画及び当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
3. 補足情報	8
(1) 販売の状況	8
(2) 設備投資の予想値	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、米国では対中国通商政策の影響懸念が出始めてはいるものの、企業業績は堅調な推移を継続している一方で、欧州では新興国における通貨不安の影響や米中通商摩擦の影響を受け景気停滞感が強まっています。中国においては景気減速の基調は変わらず、更に米国との貿易摩擦の悪影響が懸念される状況となっています。当社グループの主力事業であるリチウムイオン二次電池用セパレータ事業におきましては、EV向け需要を牽引してきた中国のリチウムイオン電池市場は、自動車用電池の助成金制度の変更及び一部の主要部材価格の価格変動等により電池メーカー各社の生産が安定しない状況が続いており、引き続き減速感がありますが、日本及び韓国の主要電池メーカー各社では動力系ハイエンド円筒型の生産の安定成長は継続しております。一方で、欧州自動車メーカーを中心とした中期的なEV需要の拡大を睨み、日本・中国・韓国等各国のリチウムイオン電池メーカー及びその主要部材メーカーの積極的な設備投資が続いております。更に欧州でも新興の電池メーカーの設備投資が急がれている状況にあります。

当社ではリチウムイオン電池市場の拡大と安全担保材料としてのセパレータに対する高品質要求に対応するため、大型最新製造ラインの導入及び工場内製造環境の改善に継続して取り組んでおります。更に2020年以降の需要拡大に備え、セパレータ成膜ライン及びコーティングラインの増設を計画的に継続しております。

このような市場環境の中、当社の中国向け売上は第2四半期に引き続きEV需要の回復が遅れており、当第3四半期連結累計期間の販売数量が大幅に減少し、1,762百万円（前年同四半期比44.6%減）となりました。韓国では引き続きLGグループ及び新規顧客向け民生用途の需要が伸びており、売上高は3,510百万円（同35.6%増）となりました。日本顧客向け販売に関しては東北村田製作所グループ各社向け販売を中心に928百万円（同17.7%減）となりました。この結果、当第3四半期連結累計期間において売上高は韓国顧客向けに大きく伸びたものの、中国顧客向けの減少を補いきれず前年同四半期を9.5%下回りました。営業利益においては、成膜ライン及びコーティングラインの増設を進めていることから減価償却費等の固定費が増加しております。また、当社製造子会社W-SCOPE KOREA CO., LTD. 及び稼働を始めたW-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.（以下、WCP）では来年以降の量産販売を目論む案件の技術評価及び仕様承認用サンプル出荷が増えており費用が増加しております。

平均為替レートにつきましては、当第3四半期連結累計期間の対1米ドルが前年同四半期比で約2.27円円高の109.61円、対1米ドルが前年同四半期比で47.80ウォンウォン高の1,090.88ウォン、対1,000ウォンでは前年同四半期比で約2.2円円安の100.5円となりました。

このような環境のもと、売上高は6,277百万円と前年同四半期と比べ655百万円（前年同四半期増減率△9.5%）の減収となりました。また、営業損失は1,736百万円と前年同四半期と比べ1,965百万円（前年同四半期は228百万円の営業利益）の減益、税金等調整前四半期純損失は1,559百万円と前年同四半期と比べ1,571百万円（前年同四半期は12百万円の税金等調整前四半期純利益）の減益、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,353百万円と前年同四半期と比べ1,372百万円（前年同四半期は19百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）の減益となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間以降の世界経済は、米中通商摩擦の中国経済に及ぼす影響と中国経済の停滞に欧州経済がどれほどの影響を受けるかとの懸念はあるものの、電池関連事業においては中長期的に自動車業界需要の拡大が見込まれております。

第4四半期以降においては、概ね計画通り推移していくものと見込まれます。韓国顧客向け販売は順調に伸びる見通しであり、日本顧客向け販売も回復基調となっております。一方で、2019年以降の既存顧客の需要増への対応の為に先行投資は継続しております。今後、EV用電池設計において更に高エネルギー密度化が進む中、当社の主力製品である薄膜コーティングセパレータへの需要の大きな伸びが期待されます。

当社生産状況は、新規に導入した大型製造ライン（第8-11号ライン）からのサンプル出荷を継続し、来年以降の量産販売本格化に向け準備を進めるとともに、WCPへの第12、13号ラインの設置準備（2019年下期稼働予定）及び第14、15号ラインの正式発注に向けた設備仕様の最終調整を進めております。これに加え、WCPには新規に4本のコーティングラインの投資を決定しました（2020年上期稼働予定）。これらの設備投資により当社生産能力は、2018年から2020年まで2017年度末比で毎年50%超の増量となります。

なお、業績見通しの前提となる第4四半期の平均為替レートにつきましては、対1米ドル108円、対1米ドル1,100ウォン、対1,000ウォン98.2円を想定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,529	8,972
受取手形及び売掛金（純額）	2,450	2,486
商品及び製品	1,036	1,918
原材料及び貯蔵品	397	399
その他	571	576
流動資産合計	14,985	14,353
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,766	8,038
減価償却累計額	△677	△868
建物及び構築物（純額）	5,088	7,170
機械装置及び運搬具	22,466	23,392
減価償却累計額	△6,466	△8,019
機械装置及び運搬具（純額）	16,000	15,373
建設仮勘定	10,057	11,335
その他	393	526
減価償却累計額	△196	△232
その他（純額）	196	293
有形固定資産合計	31,343	34,173
無形固定資産		
その他	72	137
無形固定資産合計	72	137
投資その他の資産		
繰延税金資産	237	409
その他	36	40
投資その他の資産合計	273	450
固定資産合計	31,688	34,761
資産合計	46,674	49,115

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	127	137
短期借入金	5,854	5,699
1年内返済予定の長期借入金	2,067	3,424
未払金	808	771
未払法人税等	18	19
繰延税金負債	115	63
その他	103	150
流動負債合計	9,094	10,266
固定負債		
長期借入金	14,060	17,640
退職給付に係る負債	182	314
繰延税金負債	0	0
その他	387	453
固定負債合計	14,631	18,408
負債合計	23,725	28,675
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,676	7,692
資本剰余金	7,622	7,638
利益剰余金	3,934	2,503
自己株式	△0	△0
株主資本合計	19,232	17,834
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	3,673	2,573
その他の包括利益累計額合計	3,673	2,573
新株予約権	42	31
純資産合計	22,948	20,439
負債純資産合計	46,674	49,115

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年1月1日 至2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年9月30日)
売上高	6,933	6,277
売上原価	5,747	6,523
売上総利益又は売上総損失(△)	1,185	△245
販売費及び一般管理費	957	1,491
営業利益又は営業損失(△)	228	△1,736
営業外収益		
受取利息	8	16
為替差益	-	264
助成金収入	66	74
資産受贈益	44	3
その他	3	2
営業外収益合計	123	362
営業外費用		
支払利息	51	146
為替差損	273	-
支払手数料	22	40
その他	0	8
営業外費用合計	347	195
経常利益又は経常損失(△)	4	△1,569
特別利益		
新株予約権戻入益	8	10
特別利益合計	8	10
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	12	△1,559
法人税等	△6	△205
四半期純利益又は四半期純損失(△)	19	△1,353
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	19	△1,353

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	19	△1,353
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	258	△1,099
その他の包括利益合計	258	△1,099
四半期包括利益	277	△2,453
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	277	△2,453
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税金等調整前四半期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、見積実効税率を合理的に見積もれない場合、税金計算については年度決算と同様の方法により計算し、繰延税金資産及び繰延税金負債については回収可能性等を検討した上で四半期連結貸借対照表に計上しております。

3. 補足情報

(1) 販売の状況

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績は、次のとおりであります。

事業部門の名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	
	販売高(百万円)	前年同期比(%)
リチウムイオン二次電池用セパレータ	6,277	90.5
合計	6,277	90.5

(注) 1 当社及び連結子会社は、リチウムイオン二次電池用セパレータ事業の単一セグメントであるため、販売実績は、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
LGグループ	2,512	36.2	3,015	48.0
東北村田製作所グループ	1,095	15.8	867	13.8
東莞市旭冉電子有限公司 (Xuran Electronics Co., Ltd.)	2,235	32.2	821	13.1
EVE Energy Co., Ltd.	—	—	703	11.2

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

4 LGグループには、LG CHEM, LTD. を含んでおります。東北村田製作所グループには、Murata Energy Device Wuxi Co., Ltd. 及びMurata Energy Device Singapore Pte. Ltd. を含んでおります。

5 前第3四半期連結累計期間のEVE Energy Co., Ltd. については、当該割合が100分の10未満であるため記載を省略しております。

(2) 設備投資の予想値

設備投資の予想値

会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後 の増加 能力
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
W-SCOPE KOREA CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道清州 市)	第5号及び 第6号コー ティング生 産設備	1,004	843	自己資金 及び銀行 借入	2017年 2月	2018年 下期	加工生産 量約200 %増
W-SCOPE KOREA CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道清州 市)	第7号～第 10号コー ティング生 産設備	3,762	319	自己資金 及び銀行 借入	2018年 6月	2020年 上期	加工生産 量約400 %増
W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道忠州 市)	第10号及び 第11号生 産ライン	11,060	9,947	自己資金、増資 資金及び 銀行借入	2016年 10月	2019年 上期	生産量約 60%増
W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道忠州 市)	第12号及び 第13号生 産ライン	10,131	2,016	自己資金、増資 資金及び 銀行借入	2017年 9月	2019年 下期	生産量約 60%増
W-SCOPE CHUNGJU PLANT CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道忠州 市)	第11号～第 14号コー ティング生 産設備	4,890	37	自己資金 及び銀行 借入	2018年 9月	2020年 上期	加工生産 量約400 %増

(注) 1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2 当社の事業はリチウムイオン二次電池用セパレータ事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしておりません。

3 「完成後の増加能力」については前連結会計年度末比にて記載しております。

4 なお、前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、完了したものは、次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容	投資額 (百万円)	完了年月	完成後の 増加能力
W-SCOPE KOREA CO., LTD.	本社 (大韓民 国忠清北 道清州 市)	第3号及 び第4号 コーテ ィング生 産設 備	1,763	2018年 3月	加工生産 量約200 %増

5 「完成後の増加能力」については前連結会計年度末比にて記載しております。